



特集

脳梗塞になっても助かるまち

“彦根”を目指して

脳卒中の中でも多くを占める脳梗塞（右図）は、昨今の治療の進歩により、発症から障害（脳細胞死）となるまでに治療をすれば、後遺症が少なく抑えることができるようになりました。市立病院では患者さんが到着した後、可能な限り早く治療を完了できる体制を 365 日 24 時間整えています。

今回の特集では、脳梗塞になっても助かる人が 1 人でも多くなるように、また発病しないために、その症状や治療方法、予防法などを紹介します。

市立病院総務課 ☎ 22-6050

脳梗塞とは

脳の血管が詰まることで、脳細胞に酸素が届かなくなり、脳細胞が死んでしまう病気です。麻痺などの後遺症により、寝たきりの原因になります。

Q. どんな症状（前兆）があるの？

“顔の麻痺” “手の麻痺” “言葉の不自由” のうち、1 つでも症状が現れた場合は、脳梗塞である可能性が高いと言われています。

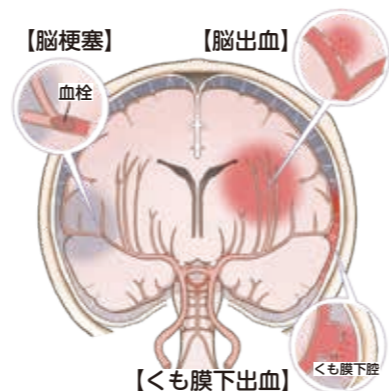
Q. 発症しやすい年齢層は？

動脈硬化や不整脈が主な原因なので、**高齢者に多い病気**と言われています。
※稀に 30 歳代で脳梗塞になる方もおられるので、年齢に関わらず注意が必要です。

Q. 予防対策は？

高血圧・高コレステロール血症・糖尿病・喫煙などの“動脈硬化の危険因子”や、心房細動などの“不整脈”を、**健康診断で早期に発見し、治療しておくことが大切です。**
※喫煙はすぐにでも止めましょう。

脳卒中(脳血管の病気)	【75%】 脳梗塞 血管が詰まる
	【20%】 脳出血 血管が破れて脳内で出血
	【5%】 くも膜下出血 脳動脈瘤が破裂



助かるためには、何を置いても



早く病院に到着することが大事です！



市立病院・脳神経外科部長

ちほら ひでお
千原 英夫

治療が間に合うためには、1分1秒でも早く患者さんが病院に到着する必要があります。なぜなら、動脈が閉塞した直後から脳細胞は死に続けているからです。

悲しいことに、現在でも、病院到着まで時間がかかった理由として「良くなるかと思って様子を見ていた」「家の準備・移動手段の準備に時間がかかった」「救急車を呼ぶと体裁が悪い」などと思

者さんやご家族から聞くことがあります。

脳梗塞の症状（2ページ下段に記載）が現れたら、迷わず救急車を呼んでください。

本特集を通して、“脳梗塞を発症しても助かる可能性がある”という希望と、“時間が過ぎるほど助かる可能性が下がる”という危機感を、市民の皆さんに持っていただきたいと思

治療成績は国内トップクラス

市立病院で行われている「脳梗塞超急性期治療」

脳梗塞は、血管が詰まり、脳細胞が酸欠になり、壊死する病気です。この症状が進行する過程では、若干のタイムラグがあります。この間に、血管の詰まりを解除して、脳細胞に酸素を届けるのが、「脳梗塞超急性期治療」です。

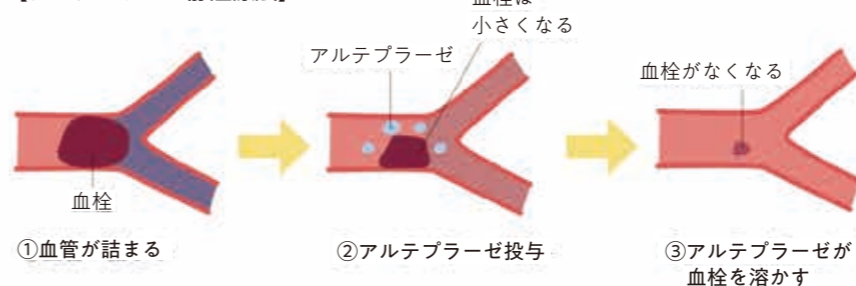
「アルテプラゼ静注療法」と「血栓回収術」

「脳梗塞超急性期治療」は、ほぼ全ての脳梗塞に対して行うことができる「アルテプラゼ静注療法」と、大きい血管に詰まった血栓を取り去る「血栓回収術」とがあります。従来の治療では、大きな後遺症を残していた患者の方を、この画期的な治療で助けることができます。

ただし、脳梗塞になって（脳細胞が壊死して）しまった後では、脳細胞を助けることができないため、脳血管が詰まってからどれだけ早く治療するかが大切です。

※脳梗塞になって（脳細胞が壊死して）しまったから治療すると、患者さんの状態が悪くなるため、治療自体が行えません。

【アルテプラゼ静注療法】



※「やさしくわかる脳卒中」より引用

【血栓回収術】

